

「地域とともにある学校」とは？



令和7年7月31日（木）福島県教育庁西庁舎12階において、県北域内の学校関係者、各市町村行政担当者等、27名参加のもと標記研修会を開催しました。

この研修会は、学校と地域との連携・協働の意義について学び、推進の方策等について考え、様々な立場の方と議論をしながら、地域連携担当教職員等の資質向上を図ることを目的として実施しました。

講義

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」

文部科学省総合教育政策局CSマイスター安齋宏之氏より、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、一体的推進の課題と解決策について講義いただきました。今、改めて「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の在り方が問われていること、学校と地域が連携・協働し、子どもたちの成長を地域全体で支える体制づくりについて具体的な事例を基にお話いただきました。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）

「共有できる価値ある目標」づくりのためには、学校運営協議会等で熟議を行うことが有効です。



校長



有識者

学校課題（子どもの問題）を解決することは、地域の問題解決にもつながります。



地域住民



ボランティア



コーディネーター



地域連携担当教職員



保護者

学校運営協議会 地域と目標やビジョンを共有

学校運営や学校運営に必要な支援に関する協議を行う

地域学校協働活動 学校と目標やビジョンを共有

地域と学校が連携・協働して行う学校内外における活動

学校や地域が抱える課題を洗い出し、まずは共有しましょう！



文部科学省総合教育政策局
CSマイスター
安齋 宏之 氏

「地域とともにある学校」

→ 「〇〇と〇〇に基づく学校経営を行っている学校」

保護者や地域住民（時には生徒）が、学校との対話をとおして信頼関係を醸成し、問題解決のアイデアを出し合い、合意を形成し、解決のために協働するシステムを構築することで、教育目標の具現化を図ることが大切です。

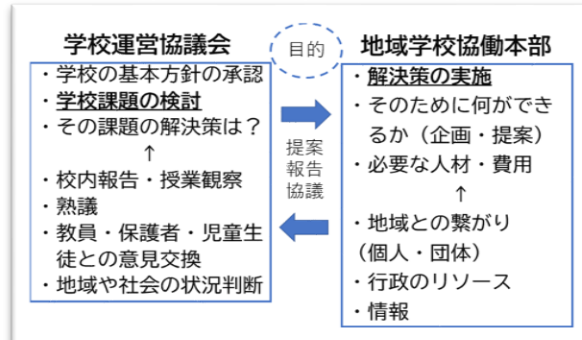
「誰かが何とかしてくれる」のではなく、自分たちが『当事者』として自分たちの力で学校や地域を創り上げていきましょう。

「子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり」

～地域と学校の両輪で不登校を考える～

東京都八王子市立松木中学校学校運営協議会会長 金山滋美氏より、学校運営協議会での取組について事例を発表していただきました。

学校運営協議会では、地域学校協働本部と目標を共有し、お互いに提案・報告・協議を行っています。（右図参照）学校運営協議会が問題意識をもつことにより、様々な家庭や子どもに関わる課題の改善に向けた取組・場所・支援者が増えてきているのを実感しているそうです。



学校課題→毎年の不登校の生徒の増加

各校の協議会（学校からの報告・協議）

↓
3校合同学校運営協議会（2小1中）での熟議

↓
拡大熟議（地域・保護者・教職員）

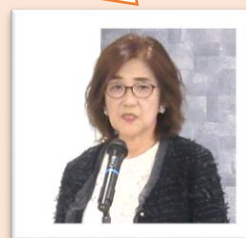
子どもたちと社会
のつながりをつくる
ことが必要！！



地域の子どもの地域で育てることをとおして、地域に貢献する子どもが育ちます。

《つながる場所の提供》

- ・子どもの居場所開設 Thirdplace『ぬくぬく』
- ・放課後カフェなないろ
- ・浄瑠璃祭り
- ・各種検定
- ・面接練習会 等



東京都八王子市立
松木中学校
学校運営協議会会長
金山 滋美 氏

学校の課題を解決することは地域をよくすることにつながる

熟議

「今、不登校の子どもたちのために

学校と地域が連携・協働してできることは何か考えよう」



実際にA～Dの4つのグループに分かれ、熟議を行いながら、熟議の進め方について学びました。熟議では、必ずしも「最適解」が見つかるわけではありませんが、解決のための具体的な取組につなげるためには、参加者が歩み寄り、合意できる方策を見出すこと（納得解）が大切です。

「対話」と「信頼」に基づく学校経営を行うことで、「地域とともにある学校」が増えていくことを期待しています。

＜参加者の声＞

- 3回目の参加です。講話の内容も事例もどちらも現在の自分にひびくものでした。本校の学校運営協議会の進め方等、もちかえって見直したいと思います。
- 学校運営協議会をどのようにすすめていくのか学びたくて参加させていただきました。学校と地域をつなぐとする人を増やすという意識で取り組んでいきたいと思いました。
- 講義でも多くの学びがありました。また、熟議を今回初めて体験しましたが、テーマの解決に向かって、小集団で意見を出し合うプロセスを学ぶことができました。